

2022年度版「理」の研究 全体像

2022年11月12日作成

(1) 人間のもつ力

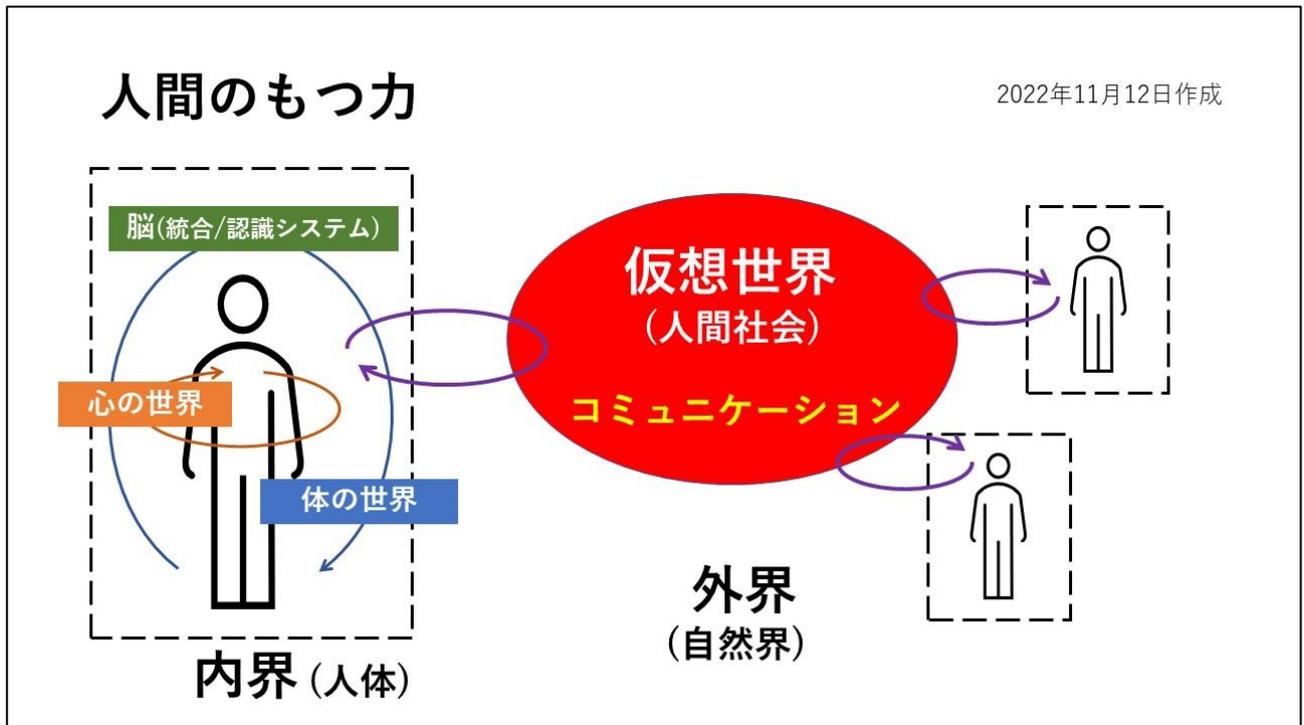
人間は生まれながらに、「自然界」や「人間社会」と情報のやりとりできる力を持っている。

そのやりとりできる力とは、

自然界のなかには、自然を感じる力であり、人間社会のなかには、社会の一員である自覚とそのなかでコミュニケーションがとれる力である。

こうした力は、進化の過程で獲得してきた力である。

人間の体内における外部世界との情報のやりとりを説明する。



「体」の世界においては、五感を介して外部情報を体内に取り入れている。(図1)

「心」の世界においては、五感からの外部情報や体内(脳)にため込んでいる記憶や感情をもとに、脳の働きによって一瞬、一瞬に意識、情動が生まれる。

これらの意識(思考)、情動は、出力情報として外界へ伝えられる。(図2)

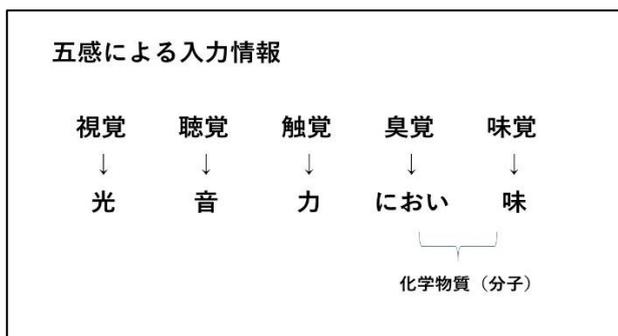


図1

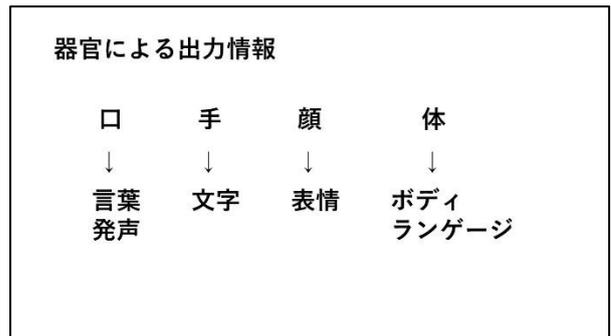


図2

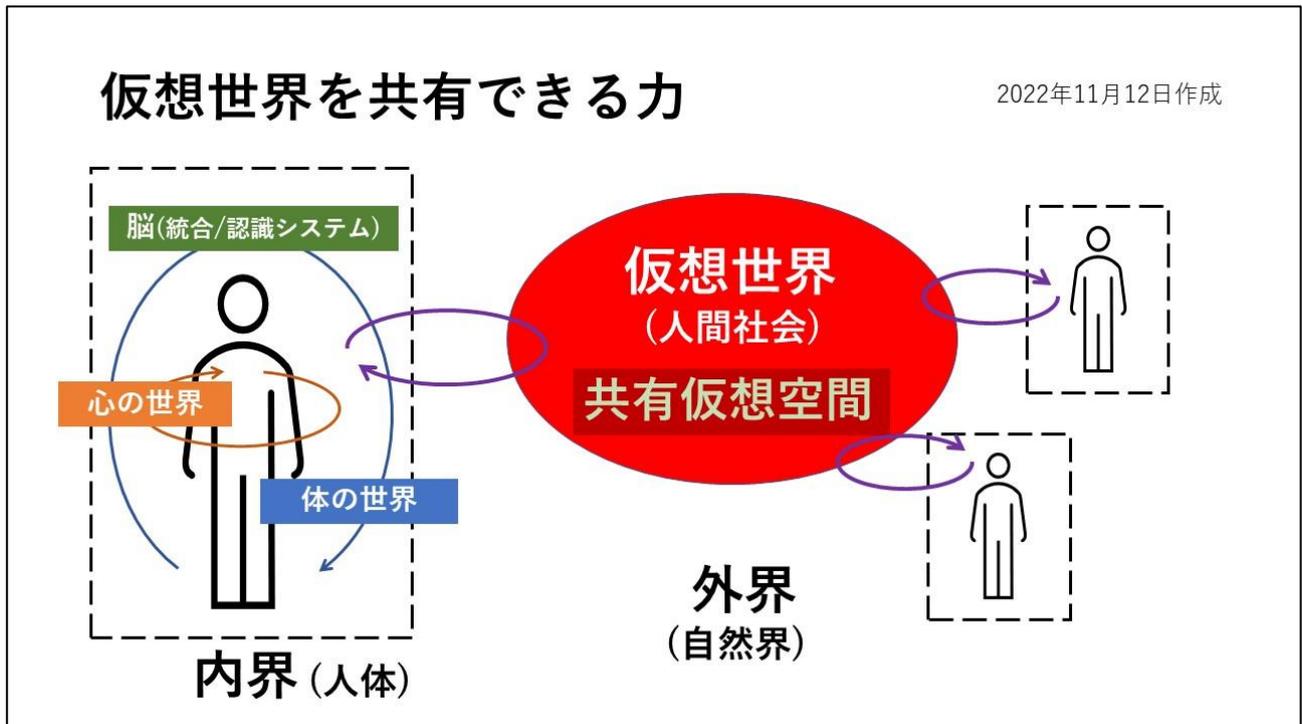
(2) 仮想世界を共有できる力

人間は、2つの仮想世界をつくる力をもっている。

1つは、思考や感情を自分のなかにつくり出すことができる力である。この自分のなかにある仮想世界は、「心」の世界、または自己意識とも呼べるものである。「サピエンス全史」の著者であるハラリ氏は著書の中でこの仮想世界を主観的現実世界と呼んでいる。

もう1つは、この内部世界（内界）の意識（思考）や感情を外部世界（外界）の仮想空間で共有できる力である。この外部世界にある仮想世界を共有仮想空間、さらにもっと単純に人間社会と呼んでよいと考える。ハラリ氏は著書の中で共同主観的現実世界と呼んでいる。

人間は、他者と共有化できる仮想世界を外部世界につくる能力を得て、概念を共有化し、共同作業を可能にさせ、ここまでの人間社会を築いてきた。



(3) Web世界の出現

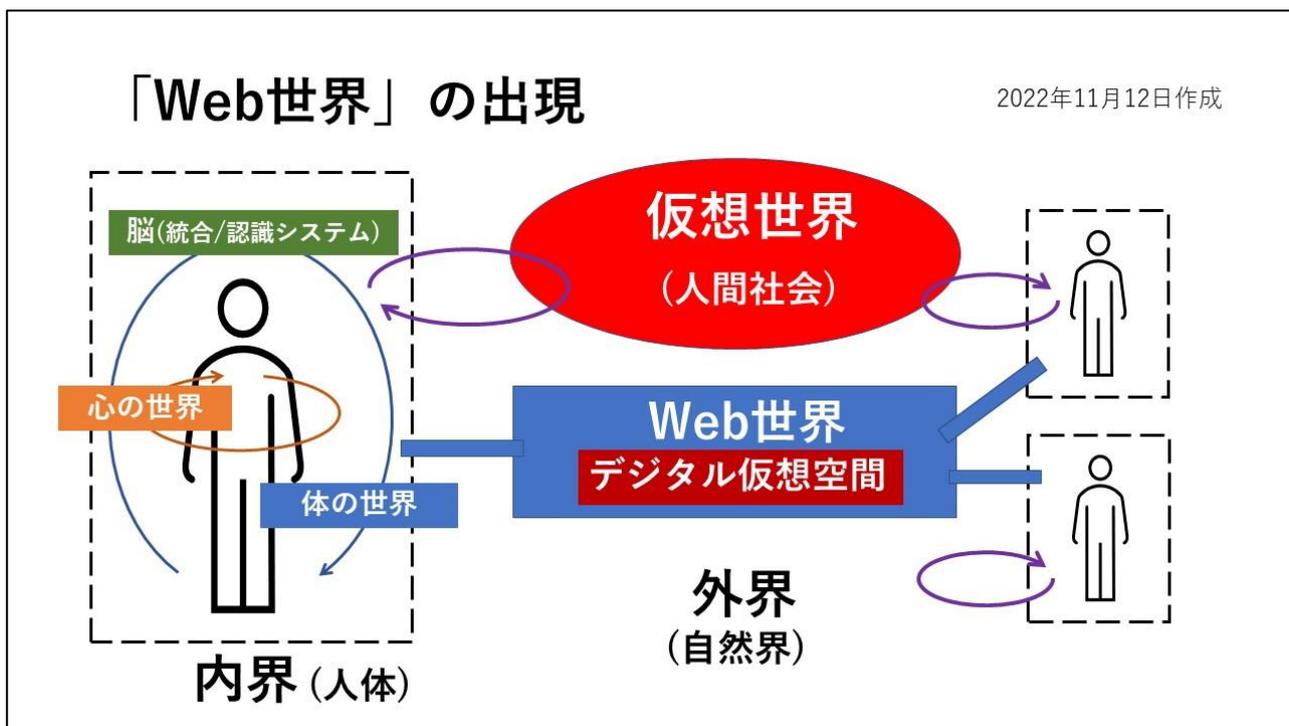
人間社会は、狩猟社会 (Society1.0)、農耕社会 (Society2.0)、産業社会 (Society3.0)、情報社会 (Society4.0) と社会構造を変えて発展してきた。

そして、現在は「コンピュータ」、「ネットワーク」、「インターネット」とデジタル情報通信技術を発展させる中で社会は大きく変わろうとしている。

コンピュータがつくり出したインターネットの世界を、デジタル仮想空間と呼ぶことにする。

人間の力だけでは、情報を伝えられるエリアは狭い範囲に限られていたが、コンピュータの力を借りることで、時間、空間の制約の壁を超えるデジタル仮想空間をつくることに成功した。このデジタル仮想空間は、人間の手でつくり出された「Web世界」である。

この「Web世界」は、人間社会を大きく変える力をもっている。



(4) 「コンピュータ学」が目指すこと

拙稿『「三学」と3つの世界について』で「三学」について説明しています。ここでは、「三学」のうちの一つである「コンピュータ学」について、「コンピュータ学」は何を目指しているのか述べたい。

私がコンピュータを使ってやりたいと考えていることは、
「人間の力では限界があることを、コンピュータの力を借りてやり遂げることである。」
しかし、これでは当たり前すぎて、答えたことになっていないだろう。
そこで、人間の力、コンピュータの力について説明する。

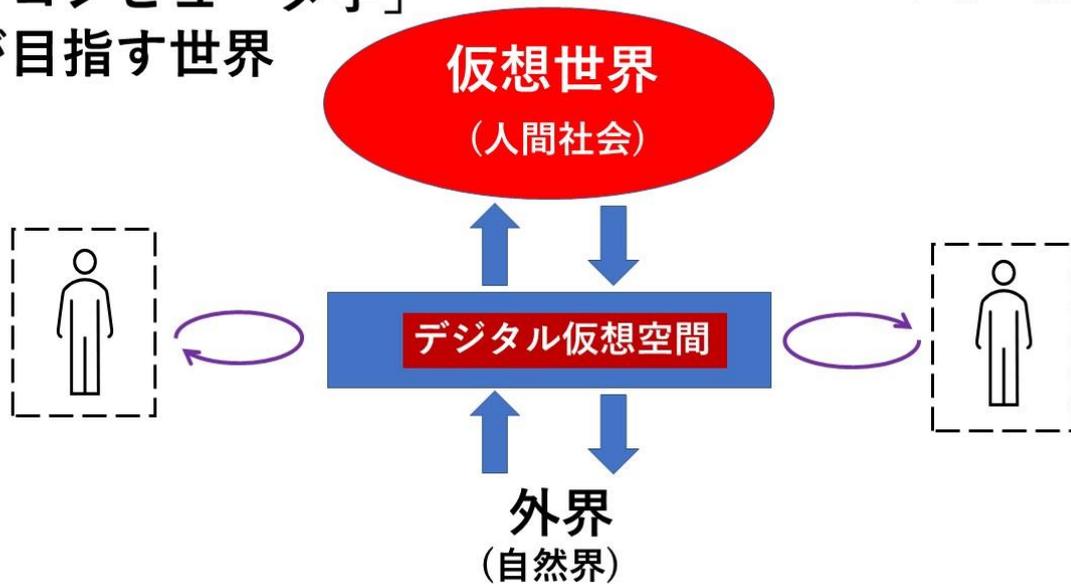
「(1) 人間のもつ力」のところでも述べたが、人間は人間社会という仮想世界で他者と意識（概念、知識、知性、感情）を共有化させることができ、この共有力によってここまで人間社会を発展させてきた。そして、「(3) Web世界の出現」で述べたように、人間はコンピュータを使ってデジタル仮想空間であるWeb世界をつくり上げた。このWeb世界では、時間、空間の壁を超えて、様々なデジタルデータを共有化させることができる。

デジタル技術も元を返せば自然界の恵みを使っているわけだが、このすばらしい能力を持つWeb世界を本来の「理」にかなった形で使うことを探究する学が私の目指す「コンピュータ学」である。残念ながらそのような形でコンピュータが使われていないように思う。

「コンピュータ学」の内容については別の場所で述べることにする。

「コンピュータ学」 が目指す世界

2022年11月12日作成



(5) 「理」の研究で目指すこと

この稿の最後に、「理」の研究で目指すことをまとめとして述べます。

「天理学」、「人間学」、「コンピュータ学」をまとめて「三学」と呼んでいます。

「天理学」は、外界である自然界、そして物質世界である宇宙の本質について知ることを目指しています。

「人間学」は、外界とやり取りをして生命活動を行っている「体」の世界、そして、脳の統合・認識活動によって作り出される「心」の世界、外部と意識を共有化させることができる仮想世界について知ることを目指しています。

「コンピュータ学」は、人間社会である仮想世界と Web 世界であるデジタル仮想世界をデジタル通信技術を使ってつないでいくこと（クラウドコンピューティング）、自然界と Web 世界を IOT、AI、5G といったテクノロジーを使ってつないでいくこと（デジタル・ツイン）を目指しています。

大切なことは、これら 3 つの世界は完全につながっていて、私たち人間は、そのつながりのなかで生かされているということです。

「理」の研究は、科学的視点を大切にして、この「理」を解き明かしていくことを目指しています。

「理」の研究で
目指すこと

